カテゴリー性から見る日中並列表現[1]

馮　元

キーワード：並列表現、日中、カテゴリー性

要　旨

名詞の並列表現において、日本語では、単に要素を並べるという列挙機能を持つものと、あるカテゴリーを前提とし、その要素を挙げることによってカテゴリーを暗示するという例示機能を持つものとがある。前者では「と」が用いられ、後者では「や」が用いられると考えられる。一方、中国語における名詞と名詞の並列表現としては、カテゴリーを前提とするかしないかにかかわらず、“和”[2]という表現を用いることが可能である。即ち、“和”は列挙としても例示としても使用することが可能なのである。本稿では、日中並列表現の体系を提示した上で、話者がカテゴリー性をもとに対象を列挙するとき、日中両言語でいかなる相違が見られるかを明らかにした。

1. はじめに

寺村（1984：67）は、「日本語が、英語などのヨーロッパの言語と目立って違う点の一つに、並列的な接続の形式がやたらに多いということがあげられる」と述べている。日本語において、名詞を並列的に繋ぐ言語形式としては、「と」「や」「も」「に」「やら」「とか」「など」などがある。また、動詞や形容詞については、「て（で）」「たり」「し」「ば」などといった別の形式を用いる。それに対し、英語では名詞の接続も動詞や形容詞の接続もすべて“and”で表すことが可能なため、そのような言語で育った者には、これらの助詞の使い分けを理解することは難しいとされる（寺村（1984：

[1] 本論文は江西省高校人文社会科学研究項目《基于语料库的汉日同形形容词对比研究》（項目号：YY20205）の研究成果である。

[2] 本稿では、日本語は「　」で括って表記し、中国語は“　”で括って表記する。

67)）。

本稿の出発点もまさにこの点にある。中国語の並列表現“和”も英語の“and”と同様、名詞の並列も動詞や形容詞の並列も可能であり、特に名詞の並列には、ほとんどの並列表現を“和”1つでまかなうことができるような印象を受ける。

本稿では、まず日中の名詞並列表現の枠組みの整理を試みる。次に、名詞と名詞からなる並列表現の中、最も頻繁に使用される日本語の並列表現である「と」「や」と中国語の“和”の対応関係を軸として検討を進め、「のような」とカテゴリー性の検討を加え、「と」「や」と“和”の本質的な違いを明らかにする。

従来の日中対照研究では、日本語の「と」は並列要素の全部列挙を行い、「や」は一部列挙を行うのに対し、中国語においては、“A 和 B”が全部列挙を、“A 和 B 等”が一部列挙を表すといった対応が想定されている。このような分析は比較的分かりやすく、両言語の端的な特徴をとらえているといえるが、例外も多く、文法記述として十分に説得的なものではない。

現在、日本語学においては、「と」と「や」の使い分けには、カテゴリー性の有無がかかわっているという解釈が一般的である。一方、日中対照研究では、このようなカテゴリー性の有無に関する解釈は未だ取り入れられていない。従って、カテゴリー性という観点を導入したうえで日中並列表現の対照研究を進めることにより、新たな文法的知見が得られると考えられる。

2. 日中の名詞並列表現の枠組み

まず、中国語には名詞と名詞を並列する機能を持つ語としてどのようなものがあるのかを整理する。

本稿では、中国語の接続表現を、便宜上接続詞、列挙助詞、語気詞という 3 つのグループに分けて考える。まず、接続詞に含まれるものとして、“和”“跟”“同”“与”などがある。これらは、並列要素 A と B の間に置かれるという構造的特徴を持つ。このうち、代表的かつ使用頻度が高いのは“和”である。また、B の後に置く列挙助詞として、“一类/之类，等/等等”などがある。さらに、A の後にも B の後にも置くことができる語気詞として、“啦”“呀”“啊”がある。語気詞は、必ずしも名詞のみを並べるわけではない。

中国語と日本語の並列表現の関係を一通り示すと、次のようになる。

“和”

(1)　我们学习政治和业务。

われわれは政治と実務を学習する。

（香坂 1988：111）

“等”

(2)　我家阳台上种有迎春、石榴、木桃、月季等，花开不断。

わが家のベランダにはレンギョウ、ザクロ、ボケ、バラなどが植えてあり、花が絶えず咲いている。

（香坂 1988：62）

“之类”

(3)　由于弦的振动而发音的乐器叫弦乐器，如琵琶、二胡、提琴之类。

弦の振動によって音を出す楽器を弦楽器という。たとえば琵琶・二胡・バイオリンのようなものである。

（北京商務印書館・小学館 1992：1888）

“啦”

(4)　大米啦、白面啦、杂粮啦、粮食店里样样都有。

米だとか小麦粉だとか雑穀だとか、食糧店にはなんでもある。

（香坂 1988：158）

以下、中国語において接続詞と呼ばれるものをグループ X、列挙助詞と呼ばれるものをグループ Y、語気詞と呼ばれるものをグループ Z と名づける。グループ X・Z は日本語における助詞に相当し、グループ Y は副助詞および助動詞に相当する。中日の名詞並列表現の対応関係をまとめると、表 1 のようになる。

表 1　中日の名詞並列表現の枠組み

	X		Y		Z
	X1	X2	Y1	Y2	
中国語	和	或	一类，之类	等，等等	啦，呀，啊
日本語	と、や	か	のような	など、などなど	とか、やら、だの

品詞性に基づいて分類を行うと、中国語の並列表現は上記のように 3 つのグループに分けられる。中国語のグループ X は「A（　）B」という形で並列を行い、B の後に

置かれることはない。一方、グループ Y に関しては、「B（　）」という形で用いられ、B の後に置かれる形しか容認されない。グループ Z に関しては、「A（　）B（　）」という形で並列を行い、A の後にも B の後にも置かれる必要がある。

一方、日本語のグループ X とグループ Z を見ると、いずれも並列助詞のカテゴリーに分類される。中国語の対応関係を重視し、本稿では「と」「や」「か」をグループ X、「とか」「やら」「だの」をグループ Z と見なす。それぞれ中国語の並列接続詞（グループ X）と語気詞（グループ Z）に相当する。両言語のグループ X とグループ Z は対応関係にあると考えられ、意味的な特徴から見ると、グループ X は日中とも確定的な表現形式であり、グループ Z は非確定的な表現形式であるといえる。以下、各並列表現を個別に見ていく。

日本語では、「と」「や」「も」が確定的な並列助詞として挙げられる。これらの表現は、発話者が取り上げようとしている対象に関し、列挙を行うという性質を持つ。一方、非確定的な並列助詞としては、「とか」「やら」「だの」などが挙げられる。これらの形式を用いる際、いくつの要素を並べるのか、またどれだけの要素を並べるのかということを話者は明確に想定しない。これらの表現によって並列される要素は、例示を行うために取り上げられているにすぎない。即ち、話者がその場で想起した順番に従って列挙しているのであり、挙げるべき要素の全体像をあらかじめ把握したうえで発話しているわけではないのである。

中国語の並列表現も同様に解釈できる。中国語において、並列接続詞の“和”が確定型と見なせるのに対し、“啦”“呀”“啊”などの終助詞的な要素は不確定型であると見なせる。不確定な列挙を行う場合には、後者の並列表現を用いる必要がある。

以上のように、確定型と非確定型の 2 つのグループを分ける基準は、あらかじめ準備されたものを並列しているのか、その場で想起されたものを並列しているのか、という点にある。この 2 つのグループのうち、本稿では、グループ X について検討する。

グループ X は、さらに 2 つの下位類に分けられる。「と、や」のグループ X1 と「か」のグループ X2 である。グループ Y も日本語、中国語ともに 2 つに分けられる。「のような」、“一类”などのグループ Y1 と、「など」、“等”のグループ Y2 である。中国語の場合、“等”“一类”は列挙助詞とされる。一方、日本語の場合、「など」は副助詞であり、「のような」は助動詞であるが、機能的には等しいといえる。また、中国語で“等一类”のように、“等”と“一类”を共起させられるのと同様、日本語でも、「などのような」という形をとることが可能である。但し、“等”と“一类”は同じ列挙助詞であっても、構造的には異なっていると考えられるため、さらに 2 つのグルー

プに分ける必要があると思われる。このように見ると、日本語と中国語の並列表現はシステムとしてかなり似た形になっていることが分かる。

次の節では、グループ X1 について論じる。

3. 「と」「や」と“和”の意味

まず、並列助詞の「と」「や」に関して、倉石ほか（2001）の『岩波日中辞典』では、以下のように記述されている。

「と」（列挙）　和，与，同

例：兄と妹　　哥哥和妹妹

バナナとりんごと苺を買った　　买了香蕉、苹果和草莓

それとこれとは別問題だ　　这个和那个是两码事

（倉石ほか 2001：772）

「や」（並列）

例：新聞やテレビなどで報道する　　用报纸、电视等进行报道

手や足を動かす　　活动手和脚

（倉石ほか 2001：1143）

また、並列接続詞の“和”に関しては、吕（1983）では、以下の 2 つの意味を持っていると説明されている。日本語の訳文は吕（2003）の訳文（菱沼透・牛島徳次（訳））を引用している。

①表示平等的联合关系。连接类别或结构相近的并列成分。

（対等な連合関係を表す。品詞または構造の近い並列成分をつなぐ）

例：工人和农民　　（労働者と農民）

②表示选择，相当于“或”。常用于“无论、不论、不管”后。

（選択を表し、“或”に相当する。ふつう“无论、不论、不管”の後ろに使われる）

例：无论在数量和质量上都有很大的提高　　（質量共に大きく向上した）

（吕 1983：232）（吕 2003：174）

このように、日本語の「と」「や」と中国語の“和”は、意味上でかなり対応しているように見える。一方、うまく対応しないものもある。

4. 「と」「や」と“和”が対応しない場合

この節では、「と」「や」と“和”が対応しない場合を挙げる。

4.1 「と」が“和”に訳せない場合

「と」で数字を連結する場合においては、いずれも“和”に訳せない。

(5) a. このポイントカードの有効期間は一年と三ヶ月です。
b. ＊这张积分卡的有效期间是一年和三个月。
(cf. 这张积分卡的有效期间是一年零/φ三个月)

(作例)

(6) a. 風間さんのは十四カ年と六カ月にしかならない。
b. ＊风间先生只有十四年和六个月。
(cf. 风间先生只有十四年零六个月)

(中日対訳コーパス：破戒)

(7) a. 1＋3 分の 1 はいくつになりますか。答えは 1 と 3 分の 1 です。
b. ＊1 加 1/3 等于多少？答案是 1 和 1/3。
(cf. 1 加 1/3 等于多少？答案是 1 又 1/3)

(作例)

(8) a. 先に千円のお返しです。のこり（628 / 600 と 28）円のお返しです。
b. ＊先找您 1000 日元，再找您（628 / 600 和 28）日元。
(cf. 先找您 1000 日元，再找您（628 / 600 零 28）日元)

(作例)

例文（5）を用いて分析する。(1) では、「一年」と「三ヶ月」が別個に存在するわけではない。「一年」と「三ヶ月」がひとつのまとまりであることを意味する。即ち、一年と三ヶ月をあわせた「一年三ヶ月」という時間を表す。主語「有効期間」にかかわるものは「一年と三ヶ月」という 1 つの期間である。一方、中国語の“和”は日本語の「と」のようなひとまとめにする機能は持っていないため、“和”を使った文はこ

のような日本語文には対応しない。

4.2 「や」が“和”に訳せない場合

「や」も“和”に訳すことができる場合があるが、以下の例のようにうまく対応しないものもある。

(9) a. 彼は気前がいいから、5 万や 10 万なら理由を聞かずに貸してくれる。
b. 他很慷慨，借个 5 万 10 万的不问理由就会借给你。
（グループ· ジャマシイ 2001：778）

(10) a. 鮪の二匹や三匹釣ったって、びくともするもんか。
b. ＊就算你能钓起两条和三条金枪鱼来，又有什么大惊小怪的。
（cf. 就算你能钓起两条三条金枪鱼来，又有什么大惊小怪的）
（cf. 就算你能钓起两三条金枪鱼来，又有什么大惊小怪的）
（中日対訳コーパス：坊ちゃん）

(10) では、二匹の鮪と三匹の鮪を並列しているのではない。「や」が数量詞を繋げて鮪の数を不確定的に表している。このように、日本語は「や」で数量詞を繋げた場合に、概数を表す。一方、中国語の“和”にはこのような用法がないため、このような日本語の文とは対応しない。

4.3 “和”が「や」に訳せない場合

“和”が「や」に訳される際は、カテゴリーの例示として認識できる場合に限られる。

(11) a. 深谷中也有人家，炊烟袅袅，犬吠鸡鸣，牲灵和赶牲灵的人小得如蚂蚁在爬。
b. 峡谷の中にも人家があって炊事の煙がゆらゆらと立ち昇り、犬や鶏の鳴き声が聞こえ、家畜やそれを追う人の姿が蟻のように見える。
（中日対訳コーパス：插队的故事）

「カテゴリーの例示」の観点から説明すると、その時点で視野に入る場面の中の動物や人物が全部小さくて、「蟻のように見える」ということが前提になる。視野に入る

場面というカテゴリーを聞き手（読者）にわかってもらうために、例示的に「家畜」と「それを追う人」を挙げたのである。「要素の列挙」の観点から説明すると、「家畜」と「それを追う人」という 2 つの要素を話題として、この 2 つの要素がどのような様子なのかということについて、小さくて、「蟻のように見える」と述べている。文脈から見ると、明らかに「カテゴリーの例示」という観点からの解釈がより妥当であるため、「や」と訳される。以下の用例も同様である。

(12) a. 清平湾上浮着薄雾，隐约可见家家窑檐下耀眼的红辣椒，隐约可闻石碾的吱扭声，人的吆驴骂狗声，狗渐愧的讨饶声和驴的引吭高歌。

b. 清平湾は靄がかかり、各家の窰洞の軒先に吊るしてある鮮やかな赤唐辛子がぼんやりと見え、石臼を挽くゴロゴロという音や、驢馬や犬を叱りつける声や、犬が恥ずかしげに許しを乞う声や、驢馬が高くいななく声がかすかに聞こえた。

（中日対訳コーパス：插队的故事）

(12) においては、様々な声や音が聞こえることが前提になっている。この「聞こえるもの」というカテゴリーを説明するため、例として「石臼を挽くゴロゴロという音」、「驢馬や犬を叱りつける声」、「犬が恥ずかしげに許しを乞う声」、「驢馬が高くいななく声」などが挙げられている。

また、以下のような例文においては、“和”が明らかにカテゴリーの例示として認識できないため、「や」に訳せない。

(13) a. 太郎和花子是夫妇。

b. 太郎と（??や）花子は夫婦です。

（作例）

(13) は、太郎と花子の二人の関係が夫婦であることを示しているのであり、「太郎や花子」というような形で夫婦という概念を導いているのではない。二人の関係が夫婦であることを示すためには、要素を挙げるということが必要になる。一方、「や」を使うと、「太郎」が夫婦、「花子」が夫婦になってしまう。無論そのようなことはあり得ないため、「や」を使うと不自然になる。夫婦というカテゴリーを示すためには、そのカテゴリーを予測できる要素を挙げる必要がある。たとえば、「太郎・花子や次

郎・良子は夫婦です」のように、夫婦というカテゴリーを予測できる要素（「太郎・花子」「次郎・良子」）を挙げる必要がある。
もう 2 つ例を見る。

(14) a. 东和西，南和北，这些都是相对而言的。
b. 東と西、南と北は、いずれも相対的にいったものである。
c. ??東や西、南や北は、いずれも相対的にいったものである。

（作例）

(15) a. 中国人学习日语，要把清音和浊音、长音和短音的区别搞清楚。
b. 中国人の日本語学習は清音と濁音、長音と短音の区別をはっきりさせなければなりません。

（高橋ほか 1995：301）

c. ??中国人の日本語学習は清音や濁音、長音や短音の区別をはっきりさせなければなりません。

（c は筆者によるもの）

（14）では、「東と西が相対的」「南と北が相対的」のいずれも要素そのものを扱っている。ここでは目的語の「相対的」が決め手になっている。「相対的」ということは、「何と何が相対的」という関係性が一般的に想定されることになる。何かしらのカテゴリーが相対的であるということはあり得ない。（15）も同様である。「区別」であるゆえ、2 つの要素を話題として論じていると解釈するのが通常であろう。

以上の考察により、日本語の「や」はカテゴリーを前提にしているため、明らかにカテゴリーに言及していない場合、“和”に訳せない。このような場合、中国語では“A 和 B 之类的”などの形をとるのが妥当である。この点について詳細は後述する。

一方、日本語の「1 年と 3 か月」「1 匹や 2 匹」などのように、数字を並列する場合には、中国語の“和”とは対応しない。本章では、“和”が「や」に対応しない場合があるのは、「や」がカテゴリー性を前提にしているためであると主張する。

5. 「のような」とカテゴリー性のかかわり

本節では、「のような」とカテゴリー性のかかわりについて述べる。カテゴリーの概念としては、漢訳で範疇であり、物事を一定の共通の特性によって分類したもので

ある。たとえば犬や猫は動物というカテゴリーに属し、花や草は植物というカテゴリーに属する。カテゴリー性というのはカテゴリーがあることを表す言語形式であり、カテゴリーを想起させる機能であり、カテゴリーを示すという機能を持つ性質である。

たとえば、「中国のような国」における「のような」の前置名詞「中国」は「のような」の後置名詞「国」というカテゴリーに属している。ここで限定的なカテゴリーと非限定的なカテゴリーがあることを説明しておく。

限定性というのは、話者が言及している対象を並列要素に限定するかどうかの問題である。並列要素に限定していれば、限定性を持っていることになる。並列要素に限定せず、並列要素の例示により、背景となるカテゴリーを示したい場合は、限定性をもっていないことになる。

「フランスやドイツのような国とイラクやイランのような国」という例では、「フランスやドイツ」「イラクやイラン」の両方とも「国」というカテゴリーに属していることになる。この例文における「国」というカテゴリーは「限定的なカテゴリー」である。一方、「フランスやドイツのようなキリスト教国とイラクやイランのようなイスラム教国」というような例では、カテゴリーは「非限定的なカテゴリー」である。「中国のような国」というような限定的な場合には、「国」自体はカテゴリーを表しておらず、「中国のような国」という全体が 1 つのカテゴリーを作っていると思われる。そこから想起されるカテゴリーとしては、たとえば「人口が多い国」などが挙げられる。「のような」の限定タイプと非限定タイプにより、カテゴリーの標示の仕方は変わる。これらの問題については別稿に譲るが、「A のような B」という形式をとるならば、A が B に属しているという点では限定タイプと非限定タイプは共通している。

同じく、「太郎のような学生」という表現も、「のような」の後置名詞「学生」がカテゴリーであり、前置名詞「太郎」がそのカテゴリーに属しているメンバーである。このように、「A のような B」という表現では、B はカテゴリーを表し、A はメンバーを表している。そのうえで、「のような」がカテゴリーの指標として機能しているといえる。

例示情報 A（「のような」の前置名詞）がどのようなカテゴリーB（「のような」の後置名詞）に属するとみなされているのか、例示情報 A を付加されたカテゴリーB はどのようなメンバーを典型として持つのかが、「のような」により表されている。

以上のような観察から、「のような」という形式にはカテゴリー性が読み込めるということが分かる。

「A と B のよう」はあまりないのに対し、「A や B のよう」は多くある。よって、二

者の違いは「要素を列挙する」という点と「カテゴリーを例示する」という点にあらわれるといえる。「と」「や」“和”の意味関係を表で示すと、以下のようになる。

表 2　「列挙・例示」から見る「と」「や」“和”

	日本語	中国語
列挙	と	和
例示	や	

このように整理してみると「と」「や」と“和”の機能は重なっているようにも見える。しかしながら、カテゴリー性という概念に照らすと両言語の形式には明らかな違いが見出せる。“和”と「や」は同じく例示機能を持つが、「や」にはカテゴリー性があるのに対し、“和”はむしろ要素を並列するのみであり、カテゴリー性はない。中国語の場合、カテゴリーを示す必要があるときには、ある種のマーカーとして、カテゴリーを表示する列挙助詞“一类”などの表現が用いられる。前述したように、日本語の「のような」もカテゴリー性を持つ表現である。表でまとめると、以下の表 3 になる。

表 3　カテゴリー性関与の有無

出現位置	日本語		中国語	
A（　）B	と	（−）	和	（−）
	や	（＋）		
B（　）	のような	（＋）	一类	（＋）

（＋）はカテゴリー性あり。（−）はカテゴリー性なし。

従来、並列・列挙にかかわる日本語と中国語の対照については、「と」「や」と“和”の関係が主な関心の対象となってきた。しかし、「や」のカテゴリー性を考えると、日本語の「のような」も含めた全体的な枠組みの考察が必要になる。必然的に中国語においてカテゴリーを表示する“一类”などの表現も見る必要が生じる。

6. おわりに

本稿は、話者がカテゴリー性をもとに対象を列挙するとき、日中両言語でいかなる

相違が見られるかを明らかにした。「A と B」「A や B」のような、名詞と名詞を繋ぐ並列助詞だけでなく、それらの並列表現をまとめあげる「…のような」というような形式にも言及することにより、並列表現に関する包括的な分析が可能となったと考える。

本稿は日中並列表現を体系としてとらえた場合に、どのような対応関係が見られるのかということを整理し、表 1 のような日中並列表現の体系を提示した。また、カテゴリー性の観点から日中並列表現について考察した先行研究は管見の限り見当たらないため、本稿の考察を通じて、従来のフレーム（全部列挙・一部列挙）では説明しきれなかった現象に対しても説明を与えた。日本語の並列表現には、カテゴリー性を持つ「や」とカテゴリー性を持たない「と」とがあり、列挙された名詞の後に置かれる表現のなかでも、「のような」はカテゴリー性を持つのに対し、中国語の“和”はカテゴリー性を持たないという点で日本語と異なっていることがわかった。

本稿では、日本語の並列表現については、「と」「や」などの並列助詞についての考察が主であった。しかし、中国語との対照を問題にする際には、これらの並列助詞のほかに、「のような」「など」のような表現も視野に入れる必要がある。システム全体の考察についてはまだ不足している部分があり、今後の課題としたい。

付記

本稿は、外交部中日韓合作研究中心（江西師範大学）による助成を受けている。特記して感謝の意を申し上げる。

参考文献

【日本語文献】

倉石武四郎・折敷瀬興（2001）『岩波日中辞典』（第 2 版）岩波書店.

香坂順一（1988）『初学者も使える中国語虚詞辞典』 光生館.

高橋弥守彦・姜林森・金満生・朱春躍.（1995）『中国語虚詞類義語用例辞典』白帝社.

寺村秀夫（1984）「並列的接続とその影の統括命題―モ、シ、シカモの場合―」『日本語学』3-8, pp.67-74, 明治書院.

北京商務印書館・小学館（1992）『中日辞典』 小学館.

呂叔湘（菱沼透・牛島徳次（訳））（2003）『中国語文法用例辞典』 東方書店.

【中国語文献】
グループ· ジャマシイ（徐一平（代表）訳）(2001)『中文版日本语句型辞典』くろしお出版.
吕叔湘（1983)《现代汉语八百词》商务印书馆香港分馆.

【コーパスデータ】
中日対訳コーパス（第一版）北京日本語学研究センター

ヒョウ　ゲン／江西財経大学
（2020 年 10 月 9 日受理）